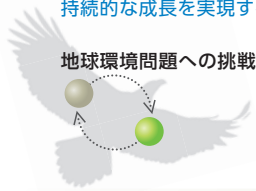


地球環境問題への挑戦 地球環境問題/カーボンニュートラルへの挑戦



2021年5月にUBEグループは、「UBEグループ2050年カーボンニュートラルへの挑戦」を発表しました。カーボンニュートラルや地球環境問題はUBEにとって大きな課題であり、その解決なくして持続可能な成長はありません。

この地球環境問題の課題解決をチャンスと捉え、2022年4月よりUBE株式会社という新社名のもと、スペシャリティ化学を中核とする企業グループを目指しグローバルに持続的成長を図ります。そのため、2022年4月に「2050年カーボンニュートラルへの挑戦」に向けて新たな中期(2030年度)目標を設定しました。GHG排出量を2030年度までに2013年度比50%削減とし、「環境貢献型製品・技術」の連結売上高比を60%以上とします。

徹底した省エネ活動に加え技術革新と燃料革新により、全社員が一丸となってこの目標を達成したいと思います。簡単なことではありませんが、技術を駆使して引き続き社会全体のカーボンニュートラルに貢献してまいります。

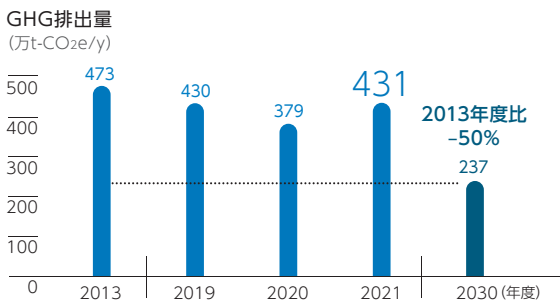
上席執行役員
環境安全部・品質保証部・購買・物流部・宇部渉外部担当
三浦 英恒

2030年度目標

1. GHG排出削減目標: 50%削減(2013年度比)
(従来は化学部門で20%削減)
2. 「環境貢献型製品・技術」の連結売上高比:60%以上
(従来は50%以上)

温室効果ガス削減に向けた取り組み

UBEグループGHG排出量削減目標の達成状況*1



GHG排出量 2021年度実績

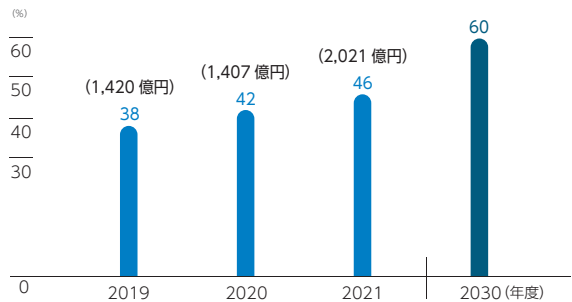
| 事業所 | 万t-CO ₂ e/y | | |
|--------------|------------------------|-------|-----|
| | スコープ1 | スコープ2 | 合計 |
| 化学部門 | 359 | 51 | 410 |
| 国内 | 279 | 20 | 299 |
| タイ | 44 | 31 | 76 |
| スペイン | 36 | 0*2 | 36 |
| UBEマシナリーグループ | 20 | 1 | 21 |
| 合計 | 379 | 52 | 431 |

(注) 四捨五入の関係で、合計が合わない場合があります。
*1 UBE三菱セメントに移管されたセメント関連事業は除いています。
*2 外部からの購入電力は、再生可能エネルギーです。

スコープ別排出量 (2021年度実績)



環境貢献型製品・技術 連結売上高比推移*1



カーボンニュートラルに向けたロードマップ

● GHG排出削減目標

生産活動における徹底した省エネ推進・プロセス改善に継続的に取り組むとともに、再生可能エネルギーの利用の最大化や化石資源利用の極小化等を推進します。

さらに、2050年のカーボンニュートラル達成には革新的な技術開発が不可欠であることから、中長期的な視野で、他社等との協業を含めた原料の非化石化やCO₂利活用技術の研究開発・実用化にも取り組めます。

● 環境貢献型製品・技術

環境貢献型製品・技術の開発を推進し、より多くのお

お客様に提供することで、UBEグループおよび社会全体のカーボンニュートラルへの貢献を目指します。

**環境貢献型製品・技術による
温室効果ガス削減貢献推定量**
2020年度実績 年間約1,090万t-CO₂e

(注)UBEグループ環境貢献型製品を利用する最終製品の使用段階において削減されるCO₂排出量(従来製品との比較)を基準として、UBEグループ環境貢献型製品のシェアおよび販売数量に基づき算出した数値(算出年度(2020年度)において普及している最終製品の数量に基づき、その1年間の使用によって削減されるCO₂量ベースで評価)

UBEグループでは、ISO14001:2015改訂版を基にガイドラインを策定し、環境貢献型製品・技術を定義しています。

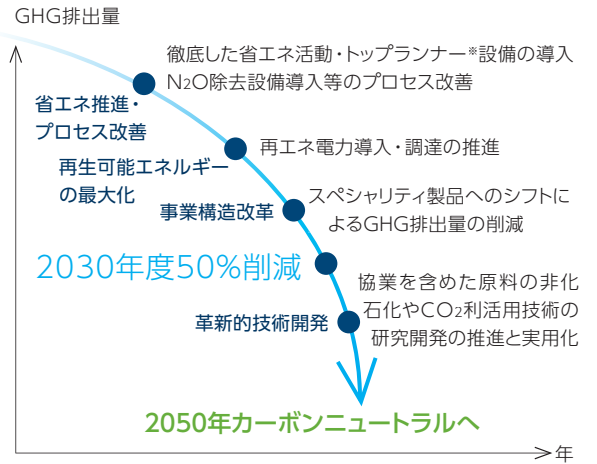
● **事業構造改革**

スペシャリティ製品へのシフトは、化石資源の利用極小化等によるGHG排出量削減とともに、原燃料などの市況に大きく左右されないレジリエンスな事業構造への転換につながります。UBEは、収益性・成長性の面からもスペシャリティ製品を中心とする環境負荷の低い事業構造を目指すとともに、ベーシックケミカル製品の高付加価値化や事業の再構築を進めます。

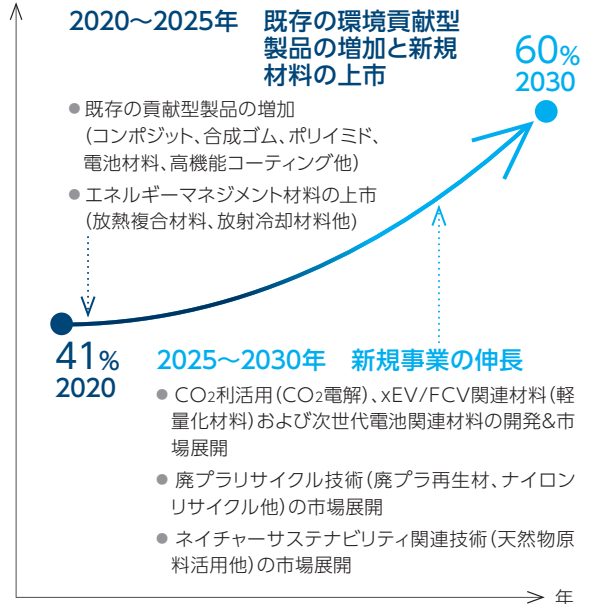
GHG排出量の多いプロセスを採用している日本国内のアンモニア生産は、2030年を目途に停止することを目指します。また、エネルギー負荷が高く中長期的に収益力の改善も見通しづらい日本国内のカプロラクタムについては、主要期系を2024年を目途に停止することを目指します。

これらの事業構造改革によって、2030年度のGHG排出量50%削減目標は達成できる見込みです。

カーボンニュートラルに向けたロードマップ



**環境貢献型製品・技術 連結売上高比
60%以上にするためのタイムライン**



社員メッセージ

環境安全部 地球環境問題対策推進グループ



グループリーダー
西村 徳安

我々の部署の取り組みは、大きく2つあると思っています。1つが、社内外のステークホルダーに対してUBEグループの取り組みを適切に開示し、企業の存在価値・持続可能性を示すこと。2つ目が社内の関係部署を巻き込んで、地球環境問題への取り組みを推進することです。この2つのPDCAをきちんと回して、両輪のバランスをとって2030年・2050年の目標達成に向かって真っすぐに進めていきたいと思っています。



重本 万里江

私は、地球環境問題に対するステークホルダーからのニーズに応え、UBEの取り組みや情報を適切かつ迅速に開示することで、地球環境問題への貢献という側面から、UBEの企業価値向上を目指しています。また、社内向けに外部環境の調査・分析に関するセミナー等を実施し、UBEグループのカーボンニュートラルの達成やサーキュラーエコノミーへの貢献など、地球環境問題に対応した持続可能な事業活動に向けて、今後も努力を続けていきます。

用語解説

※トップランナー制度:省エネ法で制定されたエネルギー消費効率 が最も優れた性能を示す機器・設備類に指定されたもの。